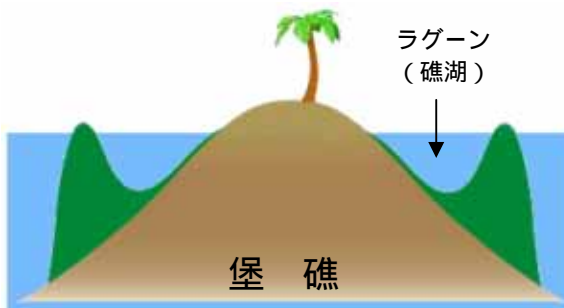


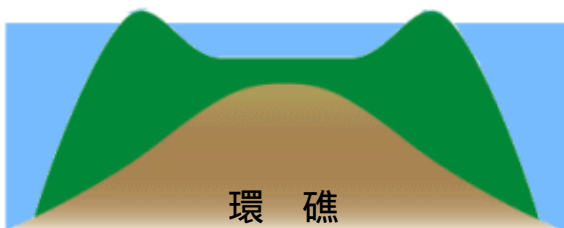
# サンゴ礁がつくる3つの地形、きょしょう ほしょう かんしょう 裾礁・堡礁・環礁



島の周囲をサンゴ礁が囲んでいます。サンゴは沖へ沖へと成長していきます。



裾礁と似ていますがサンゴ礁の内側に10m~100mの深い海(礁湖)ができています。



島が沈んだあと円形のサンゴ礁だけが海面に残り、中央に陸地がありません。

南の海をいりどる、壮大なサンゴ礁。そのサンゴ礁がつくる地形には裾礁・堡礁・環礁の3つの種類があります。

裾礁は沖縄などでよく見るビーチにつながるサンゴ礁のことです。裾礁が島を取り囲むので、サンゴ礁の上に島が乗っているように見えます。

サンゴの卵は、受精すると2〜3日でプラナラ幼生となって海を漂い、生育環境にあった浅瀬を見つけて岩などに付着します。無事に成長したサンゴは沖へ沖へと広がり、これが裾礁となります。

附着した島が、地殻変動や海水面の上昇などによって沈降していくと、サンゴは生きるために上へ上へと成長します。陸から外へ成長すると、島を中心にした丸い形になります。上から見ると真中が島で、周りを丸くサンゴ礁が囲むかたちになります。

島の沈降がさらに進むと、外礁と島との間に10~100mほどの深く窪んだ部分ができます。これをラグーン(礁湖)といいます。このラグーンをもつサンゴ礁を堡礁といいます。ラグーンの有無が、裾礁と堡礁の違いです。英語ではバリアリーフといいます。

有名なオーストラリアのグレートバリアリーフも、堡礁の一種です。千島・南西諸島を除く日本列島よりも大きく、2,600km以上の長さを誇ります。

これは地球上の生物が造り上げたものとしては最大の構造物です。人類最大の建造物という、万里の長城が思い浮かびます。その総延長は6,000kmといわれていますが、体積を考えると、間違いなくグレートバリアリーフが一番でしょう。

1981年には、ユネスコの世界遺産(自然遺産)に登録されています。



裾礁の風景



ピキニ環礁



雄大なスケールを誇るグレート・バリア・リーフ

やがて島が全部沈んでしまうと、上から見ると真中にぼっかりと穴のあいたドーナツのようになります。これが環礁です。

日本では、北大東と南大東がもと環礁ですが、かなり隆起していて崖に囲まれた島になっています。そのため、南太平洋などによく見られる環礁とは雰囲気違って見えます。

太平洋には環礁が点在しますが、モルジブやツバル、キリバスなどは国土のほとんどが環礁の上にあります。これらの国の人々にとって、サンゴ礁がふるさとの大地なのです。

地球温暖化で海面の水位が上昇すると、やがてこれらサンゴ礁の島々が沈んでしまうことが心配されています。

そして地球温暖化の影響は、現在生きているサンゴにも深刻な影響を与えています。